令和7年度学校評価における年度末の報告

進学指導部

点検・評価項目	自己評価 優れている＝3 適切　＝2 要改善　＝1	総括・意見等	特記事項
1. 有名大学への進学について 【具体的数値目標】 ・国公立大学10名 ・早慶上理3名 ・GMARCH20名 ・日東駒専30名 ・特進、進学コース ・その他のコース	2	合格者数（3月9日現在） ・国公立大学　9名 ・早慶上理　0名 ・GMARCH　12名 ・日東駒専　37名 ・放課後補習の実施 ・土曜日補習の回数増加 ・スタディサプリの活用 ・到達度テスト・外部模試の実施 ・検定試験受験の奨励 ・学習室の利用 ・放課後特別講座の実施および学校推薦型選抜や総合型選抜の入試対策を行った。 ・指定校推薦枠を有効活用し、98名が利用。	特別進学・進学コース　42名 その他のコース　16名 ・小論文対策や面接練習に力を入れ、年内入試対策を十分に行った。
2. 放課後特別講座について ・教科部門と検定部門の2本立ての実施 ・講座の改編 ・出欠席の管理を徹底する	3	・14講座実施。 ・延べ105名が受講した。 ・多くの生徒が進学を希望しており、それぞれの目標に向けて努力している。 3年生小論文は個別担当制にて実施し、延べ97名が利用した。 講座担当者が毎回出席確認を行い、欠席者へは担任を通じて出席を呼び掛けている。	講座によって受講者数にバラつき（1名～22名）があり、学年が上がるにつれて受講者数は減少している。 小論文講座は昨年度とほぼ同数の生徒が受講した。 受験を控えた3年生は欠席が少ない傾向であるが、長期休み直後は欠席者が増加している。
3. 選抜クラスについて ・模擬試験の実施 ・スタディサプリの使用率向上	2	・進研模試の受験者は少数にとどまった。 ・学習到達度テストに連動して、英語・国語・数学の各教科担当より課題配信を行った。	・進研模試について、特別進学・進学コースの生徒を除き、学校推薦型選抜(推薦入試)や総合型選抜(AO入試)で受験する生徒が多く、一般選抜による受験者数減少が影響していると思われる。

点検・評価項目	自己評価 優れている＝3 適切　＝2 要改善　＝1	総括・意見等	特記事項
4. 併設校入試について ・令和7年度進学目標数 ・清和大 50名 ・清和短大 50名 ・併設校入試の利用呼びかけ ・併設校との協力 ・連絡協議会を実施	1	合格者数 ・清和大学 併設校推薦＋総合型選抜＋一般選抜 計26名 ・清和大学短期大学部 併設校推薦＋総合型選抜　計26名 ・現3年生は1年次より、大学進学を目的とした進路ガイダンスを実施した。 ・併設校側からの目立った働きかけがなく、高校側の取り組みにも限界を感じる。 ・全担任に併設校の情報を周知した。	・清和大学、清和大学短期大学部ともに目標者数の約半数という結果となった。 ・併設校担当次長を中心に、併設校との連携改善を図った。 ・音楽ホールに全担任を集め、併設校担当者を招致して実施。
5. その他 ・進学実績100% ・進学後にも通用する学力をつける ・入試制度の理解と適切な進路指導の実践 ・各学年担任への情報発信・情報共有 ・オープンキャンパスへの参加を促し、ミスマッチを防ぐ ・ガイダンスの充実、及び受験への意識を高める	2	・98.2%（3月9日現在） ・放課後特別講座において、入試や入学後のため学力の養成に努めている。 ・各大学の入試説明会に参加し、入試変更点等を把握し、クラス担任と情報共有を行った。 ・「進学だより」発行により、情報発信を行った。 ・進路ガイダンスを通して、積極的にオープンキャンパスに参加するよう促した。 ・進路ガイダンスの実施 3年生1回 2年生1回 1年生2回	・進学希望者を対象に算出 ・Classiを利用して、「進学だより」を発行した。